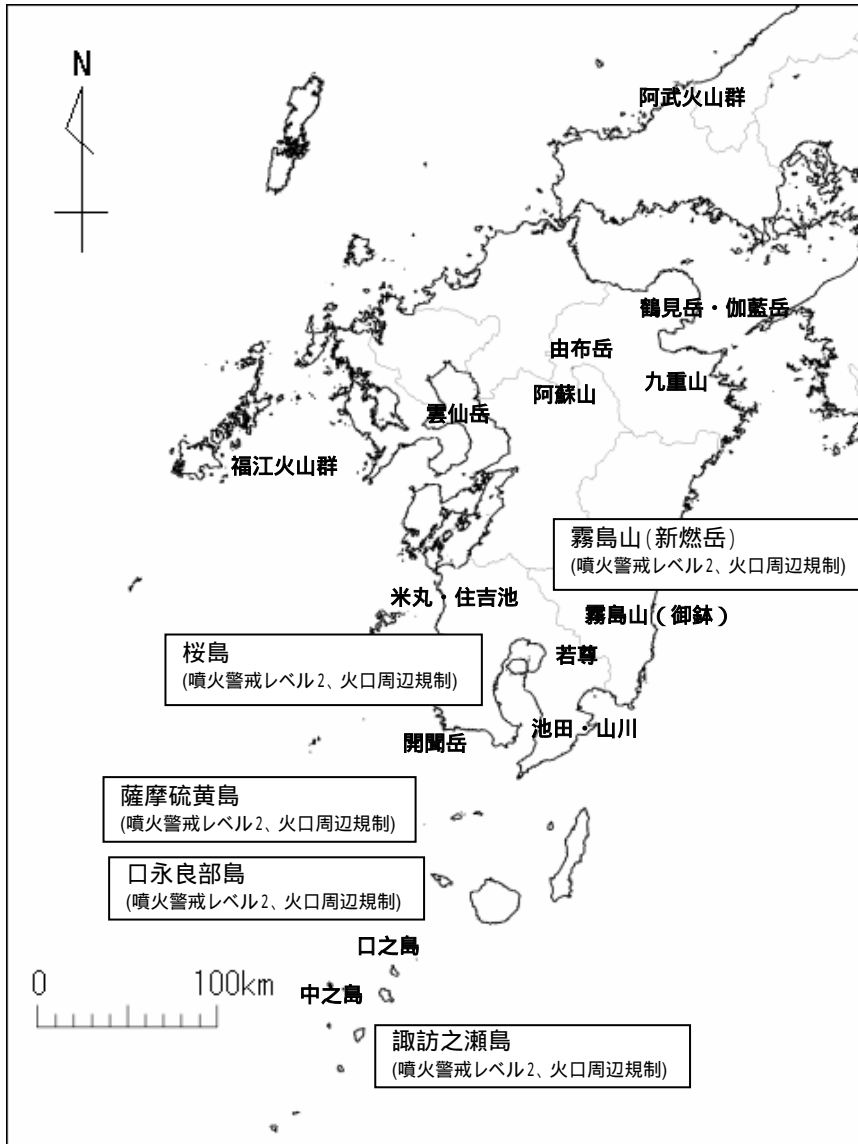


## 管内月間火山概況 (平成 20 年 9 月)

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター

### 噴火警報及び噴火予報の発表状況 (9月30日現在)

- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制) : 霧島山 (新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島  
口永良部島
- 噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常) : 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (御鉢)
- 噴火予報 (平常) : 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群  
米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例  
: 噴火警報発表中の火山      : その他の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 20 年 10 月分)は平成 20 年 11 月 7 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)。

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

口永良部島では、4日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げました。

### 九重山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

孤立型微動の発生回数は一日あたり80回前後で、8月の100回前後に比べさらに減少しました。中岳第一火口の状態に特段の変化は認められません。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその付近では火山灰の噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

### 雲仙岳 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

8月22日の噴火以降も火山性地震はやや多い状態が続いています。9月8日には振幅のやや大きな地震が一時的にやや増加しました。継続時間の短い火山性微動も時々発生しています。また、噴火以降、白色の噴煙を火口縁上概ね400mまで上げており、4日には最高高度1,300mを観測しました。

今後、新燃岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

### 霧島山(御鉢) [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

昭和火口では、7日に噴火が発生し、噴煙を火口縁上1,200m以上まで上げました。その他の日は少量の噴煙が火口縁上100mから400mで推移しました。

南岳山頂火口では、ごく小規模な噴火が時々発生しました。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。

今後、昭和火口及び南岳山頂火口の周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

なお、長期的にみると昭和火口の噴火活動は2006年6月の噴火以降、次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

### 薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

噴煙活動はやや活発で、火山性地震回数はやや多い状態が続いています。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

### 口永良部島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 9月4日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げ

9月2日以降振幅のやや大きな火山性地震が増加し、4日にさらに増加するなど、火山活動が高まっています。また、火山性微動も10日以降やや増加しました。

今後、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

爆発的噴火の発生は 49 回発生し、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後も、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から 1 km 程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。